

お知らせ

平成27年1月30日

同時資料提出先

鳥取県政記者会・島根県政記者会・岡山県政記者会・広島県政記者クラブ・山口県政記者クラブ
山口県政記者会・山口県政滝町クラブ・合同庁舎記者クラブ 中国地方建設記者クラブ

平成26年度「手づくり郷土賞」の選定結果について

～ 中国地方で一般部門1件が選定されました ～

「手づくり郷土賞」は、社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組を表彰し、好事例を広く全国に紹介することで、个性的で魅力ある地域づくりに向けた取組が進むことを目的として実施している国土交通大臣表彰です。

今年度も、全国から多数の応募がよせられ、中国地方からは次のとおり一般部門において下記が選定されましたのでお知らせします。

【中国地方の選定結果】

〈一般部門〉

件名：庭園都市おかやま 緑と水の道づくり
受賞団体：伊島学区「緑と水の道」整備推進協議会
岡山市、岡山県
認定証授与式
日時：平成27年3月18日（水）14：00～
場所：総合グラウンドクラブ（岡山県総合グラウンド敷地内）



※認定証授与式に関する詳細については、後日記者発表を行う予定です。

【全国の選定結果】

◆平成26年度「手づくり郷土賞」選定結果

	選定数
一般部門	15選
大賞部門	4選

※全国の選定結果につきましては、別紙のとおり国土交通本省において同日付で記者発表をしております。

なお、選定された成果は、地域づくりの好事例としてホームページなどを通じて広く全国に紹介する予定です。

○国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページ

本省：<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/>

整備局：<http://www.cgr.mlit.go.jp/furusato/>

○問い合わせ先

国土交通省中国地方整備局 TEL (082) 221-9231 (代表) (平日昼間)

担当) 企画部 広域計画課長 新宅 清人 (内線3211)

企画部 広域計画課長補佐 桑嶋 弘志 (内線3212) 夜間 511-6132

(広報担当窓口)

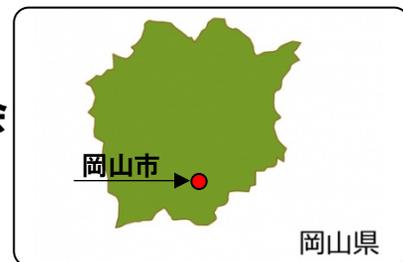
中国地方整備局 広報広聴対策官 坂本 繁幸 (内線2117)

中国地方整備局 企画部 環境調整官 田尾 和也 (内線3114)

受賞件名：庭園都市おかやま 緑と水の道づくり

受賞団体：伊島学区「緑と水の道」整備推進協議会

岡山市・岡山県



概要

平成19年、ESD活動が盛んになっていた京山地区で行われた「市長と語る会」での中学生の提案をきっかけに、整備の検討が開始された。ワークショップを通じて整備計画・管理運営計画を策定し、平成22年度に「緑と水の道」整備構想を取りまとめた。これを受け、「市民提案協働事業」が事業を実施された。

整備後は、管理運営に関する協定を締結して、日常的な管理や水辺の環境学習会の実施などを行っている。平成26年の「環境てんけん」には、130人の参加があった。



歩行者優先のみちづくり



道路と一体化した公園の整備



親水性を向上させた観音寺用水



”市長と語る会”の様子



市民による管理



「環境てんけん」の様子

<同時発表>

- ・北海道開発局
- ・東北地方整備局
- ・関東地方整備局
- ・北陸地方整備局
- ・中部地方整備局
- ・近畿地方整備局
- ・中国地方整備局
- ・四国地方整備局
- ・九州地方整備局

<問い合わせ先>

総合政策局 公共事業企画調整課
調整官 竹村 光司 (内線: 24543)
TEL: 03-5253-8111 (代表)、室直通: 5253-8271
FAX: 03-5253-1551
大臣官房 公共事業調査室
係長 吉井 洋紀 (内線: 24296)
TEL: 03-5253-8111 (代表)、室直通: 5253-8258
FAX: 03-5253-1560

国土交通省

平成27年1月30日

ふるさと 平成26年度「手づくり郷土賞」を選定しました

今般、手づくり郷土賞選定委員会を開催し、全国各地から寄せられた43件の応募（一般部門：34件、大賞部門：9件）の中から優れた取組を「手づくり郷土賞」として選定いたしましたので、お知らせいたします。

「手づくり郷土賞」は、社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組を表彰し、好事例として広く全国に紹介することで、個性的で魅力ある地域づくりに向けた取組が進むことを目的として、昭和61年度に創設された国土交通大臣表彰です。平成26年度で29回目の開催となります。

■平成26年度「手づくり郷土賞」選定結果

	選定数
一般部門	15選
大賞部門	4選

選定案件の詳細については、別添資料をご覧ください。

今後、各地方整備局等を通じて、認定証の授与式が行われます。

また、選定された好事例は、ホームページ等を通じて広く全国に紹介する予定です。

—参考— 国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページ

(<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/index.html>)

平成26年度「手づくり郷土賞」選定結果

■手づくり郷土賞(一般部門):15件

ブロック	都道府県	市区町村	案件名	応募団体名
北海道	北海道	檜山郡江差町	再現！江差の五月は江戸にもない ～”いにしえ街道”の景観を生かすまちづくり～	江差町歴まち商店街協同組合
東北	福島県	昭和村	室町時代からの伝統技術「からむし生産」伝承とからむし織姫	昭和村からむし生産技術保存協会 昭和村
関東	東京都	北区	北区・子どもの水辺	北区・子どもの水辺協議会 東京都北区
	東京都	江戸川区	東京湾海水浴場復活プロジェクト -東京都区内で約50年ぶりに海水浴場が復活-	認定NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会
中部	愛知県	名古屋市長	中川運河水辺再生への挑戦(魅力ある水辺空間の創出)	一般社団法人 中川運河チャンネルアート
	愛知県	豊橋市長	豊橋の路面電車(愛称「市電」)を活かしたまちづくり	とよはし市電を愛する会 豊橋鉄道株式会社
	三重県	伊勢市長・多気町・明和町・大台町・玉城町・度会町・大紀町	宮川流域エコミュージアム	宮川流域案内人の会 伊勢市長・多気町・明和町・大台町・ 玉城町・度会町・大紀町
近畿	滋賀県	高島市長	安曇川河畔林の竹林の保全をエコツアーにした取り組み	湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部
	大阪府	大阪市長	ストリートライブ能で美しいまちづくりと地域の賑わいづくり	公益財団法人 山本能楽堂
中国	岡山県	岡山市	庭園都市おかやま 緑と水の道づくり	伊島学区「緑と水の道」整備推進協議会 岡山市・岡山県
四国	愛媛県	今治市長	しまなみ海道を活かした自転車まちづくりプロジェクト ～地元で根ざした、持続可能な地域おこし～	特定非営利活動法人 シクロツーリズムしまなみ
	高知県	四万十市長	四万十川と共存するツルの里づくり事業	四万十つるの里づくりの会
九州	佐賀県	唐津市長	いのち育む豊かな湿地	特定非営利活動法人 アザメの会
	長崎県	島原市長	芝桜による噴火災害からの復興	特定非営利活動法人 芝桜公園をつくる会
	熊本県	山鹿市長	川と街道の歴史を元に先祖伝来！手づくりの地域興し(下町惣門会)	下町惣門会

■手づくり郷土賞(大賞部門):4件

ブロック	都道府県	市区町村	案件名	応募団体名
関東	神奈川県	川崎市長	飛森谷戸～里「都」山づくりを楽しもう～	飛森谷戸の自然を守る会
	山梨県	北杜市長	オオムラサキの里づくり	特定非営利活動法人 自然とオオムラサキに親しむ会
北陸	石川県	輪島市長	道の駅 千枚田ポケットパーク	公益財団法人 白米千枚田景勝保存協議会 輪島市
中部	三重県	多気町	高校生レストラン「まごの店」	三重県立相可高等学校 調理クラブ 三重県多気町

再現！江差の五月は江戸にもない
～”いにしえ街道”の景観を生かすまちづくり～

(北海道・檜山郡江差町)

江戸時代からの歴史的建造物を生かす街並み『いにしえ街道』が整備され活動を始めてから18年目となります。北前船による繁栄を謳った「江差の五月は江戸にもない」を再現するため、地域資源を大切にしたい持続可能なまちづくりを組合員数計35名で行っています。街道沿いの店主や住民が、先祖から伝わる話を自分たちの言葉で語り継ぐ『百人の語り部』や歴史・食・技の交流拠点『活蔵プロジェクト』も行っています。花嫁行列など各種イベントによる認知度も増し、更に近隣小中学校の総合学習の場としても活用されています。



室町時代からの伝承技術「からむし生産」伝承とからむし織姫

(福島県・昭和村)

昭和村は、本州唯一のからむし生産地で、約600年もの昔から、純粹かつ高品質の原麻が、代々受け継がれてきました。当該施設では、約20年前より毎年5月～翌年3月までの11ヶ月間、からむし織の体験を行い、後継者の育成を図っています。こういった取り組みによって、多くの村民が地域活性化に関わるとともに、からむし織の体験生が県外から当地へ定住するようになってきました。今後、村外から移住してきた人々からの、新たなアイデア等によって、村全体の更なる活性化が期待されています。



北区・子どもの水辺

(東京都・北区)

良好な生態系の保持と多世代に渡る人々の自然環境学習の場を管理運営する為、市民団体の働きかけが実り、平成15年に協議会を設立しました。対象地は計画段階から携わり、多くの意見が反映されています。市民団体が中心となった自然観察会、学校活動の支援、植物刈り等を行っており、その中でも体験学習は昨年度年間37回行われ、1,748名の参加がありました。水辺の清掃活動では年間延べ1,419名が参加しています。平成25年度の活動では年間106回、合計延べ4,000名にも及び、活動の輪が広がっています。



東京湾海水浴場復活プロジェクト

(東京都・江戸川区)

-東京都区内で約50年ぶりに海水浴場が復活-

東京生まれの子供達が海で遊び・学べる環境を再生する為、平成18年に会を設立し、現在は会員210名で活動しています。平成20年に東京湾海水浴場復活プロジェクトを発表し、東京都と協働で水質浄化実験やアカエイの侵入防止網の設置を行いました。また区民対象の自然体験イベントを実施し、平成24年には約8,500人が参加しました。その結果、平成25年に東京都区内で約50年ぶりに海水浴場が復活し、13日の開催期間で約38,000人が来場しました。今年度はお台場でも海水浴体験が実施され、他地域への波及も見られます。



中川運河水辺再生への挑戦(魅力ある水辺空間の創出)

(愛知県・名古屋市)

水運物流の中心として栄えた中川運河を再生するために、運河周辺の水辺空間を活用したアートイベントを年に2~4日間開催。また、平成21年から近隣住民との協力による運河周辺の清掃活動(年に2回)や運河沿いにコスモスの植栽を行うコスモスプロジェクトを実施し、中川運河の魅力創出に向け継続的な取組を行っています。さらに小中学校でのアートワークショップの開催により、次世代を担う学生たちに豊かな感性を育む取組を継続的に発展させています。地元主体で水辺の空間を取り戻す活動の先駆的存在となっています。



豊橋の路面電車(愛称「市電」)を活かしたまちづくり

(愛知県・豊橋市)

とよはし市電を愛する会は、市電に関心を持つ市民などが「市電を活かしたまちづくり」のテーマのもとに平成2年に設立。路面電車の利用者が減少する中、交通事業者と行政を繋ぐ役割を担ってきました。中心市街地における新電停設置の要望活動を約10年間、地元商店街とともに言い実現、また、LRV(全面低床電車)導入に向けた募金活動にも貢献しました。4月10日を「市電の日」として趣向を凝らしたイベントを毎年開催しているほか、「市電のある風景」を刷り込んだカレンダーや絵ハガキの作製、機関誌「市電文化」の発行など、多彩な活動を展開しています。



宮川流域エコミュージアム

(三重県・伊勢市、多気町、明和町、大台町、玉城町、度会町、大紀町)

宮川流域案内人の会は、宮川を中心とした流域全体の自然、歴史、文化、産業を活用して年間80回ほどの行事を企画運営、また散策路の整備や道標の設置、ゴミ拾いなどの環境整備も実施しています。行事への参加者は平成18年には1679人、平成25年には3832人と年々増加し、リピーターも増え地域の活性化に繋がっています。案内人として現在316名が登録。案内人の学習会や全国大会への参加など活動のレベルアップが図られています。宮川流域全体で連携した大規模な取組により、流域全体の活性化に繋がっています。



安曇川河畔林の竹林の保全をエコツアーにした取り組み

(滋賀県・高島市)

安曇川では江戸時代からはん濫を防ぐために河畔に植えられた竹を使った扇骨(扇子の紙以外の部分)の生産が行われてきたが、輸入材の増加等から竹林が放置され荒廃が進んだ。そこで、平成11年に地域交流創出を目的に発足した「湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部」(197名)が平成19年に竹林整備部門を設立。4,500㎡の荒廃竹林を借り受け、竹林整備・自然観察・食育等をエコツアープログラム化した「新竹取物語」を展開。平成25年度は646人の参加があった。活動費は補助金に頼ることなく、その参加費から捻出している。竹林の適切な維持管理により、山野草や昆虫が増えるとともに、洪水氾濫防止や不法投棄対策として効果があった。



ストリートライブ能で美しいまちづくりと地域の賑わいづくり

(大阪府・大阪市)

公益財団法人山本能楽堂は大阪のまちに美しい都市空間を創出し、偶然居合わせた不特定多数の人に能の魅力を知ってもらうため平成16年より公共空間におけるストリートライブの活動を開始した。そして、平成17年に「水の大切さ」を喚起し水都大阪の魅力を周知するため、水の浄化をテーマに環境問題について考える新作能「水の輪」の活動を開始した。水辺の拠点として整備された公共空間で再演を繰り返し、平成25年には「中之島GATE」で10回目の公演を実施した。本活動によって、水辺空間を活用した賑わいが創出され同時に「水の大切さ」が喚起された。



庭園都市おかやま 緑と水の道づくり

(岡山県・岡山市)

平成19年、ESD活動が盛んになっていた京山地区で行われた「市長と語る会」での中学生の提案をきっかけに、整備の検討が開始された。ワークショップを通じて整備計画・管理運営計画を策定し、平成22年度に「緑と水の道」整備構想を取りまとめた。これを受け、「市民提案協働事業」が事業を実施された。

整備後は、管理運営に関する協定を締結して、日常的な管理や水辺の環境学習会の実施などを行っている。平成26年の「環境てんけん」には、130人の参加があった。



しまなみ海道を活かした自転車まちづくりプロジェクト ～地元根ざした、持続可能な地域おこし～

(愛媛県・今治市)

「NPO法人シクロツーリズムしまなみ」は、愛媛県今治市、上島町の島嶼部をメインフィールドに、「自転車で地域おこし」を目的として、自転車ツアーのコーディネート、安全啓発、人材育成等、自転車旅行者受入を実施している。

平成17年に現在のNPOの前身となる「しまなみスローサイクリング協議会」を発足させ、その後平成21年にNPO法人化、「自転車の休憩所“しまなみサイクルオアシス“」を公募するなど受入環境の整備にも着手するなど活躍の場を広げており、島へ降りて島の人との温かい交流を通じ、都会とは異なる豊かさを感じてほしいと願い活動を続けています。



四万十川と共存するツルの里づくり事業

(高知県・四万十市)

ナベヅルマナヅル等のツルが越冬可能な条件整備と地域の環境保全を目的に、平成18年3月に設立された「四万十ツルの里づくりの会」は、里山環境づくりを進めることで地域の活性化も目指し地域とともに活動しています。

約3haの河川を整備した中山地区や、約6haの休耕田を活用した江ノ村地区などツルのえさ場・ねぐらづくりを整備するとともに地元小中学校と連携しふるさとに誇りを持ってもらいたいと願っています。平成25年には人工整備池では日本で初めてツルの越冬に成功しました。地元小中学校によるツルの体験学習会、つるの里祭り、ワークショップ、会報の発行など幅広く活動を進めています。



いのち育む豊かな湿地

(佐賀県・唐津市)

アザメの会は、唐津市相知町の松浦川にアザメの瀬自然再生事業により氾濫源(湿地)が再生されたのをきっかけに、川と人との絆を深めるための活動を行うため、平成14年に発足しました。

アザメの瀬の生き物とふれあいながら松浦川流域のすばらしい自然を次世代へ継承するため、魚取りや田植え、水生生物調査、稲刈り、収穫祭などの行事を行っています。これらの活動を通して、昨年度(平成25年度)は、年間17回、延べ524人もの方が体験学習等の行事に参加し、松浦川の自然と触れ合いました。



芝桜による噴火災害からの復興

(長崎県・島原市)

当該地区は、平成5年に雲仙普賢岳噴火災害によって甚大な被害を受けました。災害時の全国からの支援に感謝し、元気になった島原を見てもらおうと、平成21年に「芝桜公園をつくる会」を設立し、噴火災害の跡地9ヘクタールの荒野に、芝桜公園をつくる事を目指しました。現在、植栽予定地3haのうち、2.3haに約27万株以上を植栽。月2回行われる植栽・除草作業は、親子連れなど、これまでに延べ11,240名が参加しています。昨年度(平成25年度)に芝桜公園に、遠くは関西地区や九州各地から35,000人もの方が訪れました。



川と街道の歴史を元に先祖伝来! 手づくりの地域興し(下町惣門会) (熊本県・山鹿市)

平成12年、テレビドラマで下町商店街がロケ地となったことがきっかけで、ガイド付きの街案内ツアー「米米惣門ツアー」の運営を始めました。ツアーは、各店舗の店主らがリレー方式で行なうなど、歴史的地区環境整備街路事業で整備された街並みと地区の歴史を方言を交えながら分かりやすく紹介しています。また、会員同士で情報交換や批評会等を若い階層を交え開催するなど、ツアーの質の向上や後継者の育成にも努めています。年間約5,000人の観光客を受け入れており、学校の社会科見学のコースにもなっています。



飛森谷戸～里「都」山づくりを楽しもう～

(神奈川県・川崎市)

地域の宝である森や虫などの自然を守り、子供達の自然環境学習の場を残す為、平成8年に会を設立し、現在30名の会員で活動しています。定期的に広場のゴミ拾い、草刈り等の維持管理作業を行っているほか、田んぼの整備、ホタルの保護活動を行っています。活動のPRのために緑地内で音楽イベントを年2回(合計27回、14年間)実施し、毎回100～200名の参加があり、今までで延べ4,000名以上が参加しています。一般賞受賞後活動が拡がり、市の生田緑地整備事業に合わせて活動範囲も年々増えています。近年は、子供会や小学校との連携により、子供達の参加が増加しています。



【平成13年度 手づくり郷土賞(地域活動部門)受賞】

オオムラサキの里づくり

(山梨県・北杜市)

オオムラサキの生息地を次世代に残す為、平成8年に会を設立し、現在30名の会員で活動しています。当初は自然体験学習を主に行っていましたが、一般賞受賞後活動が拡がり、平成20年から里山林の下刈り、間伐、植樹活動を開始、現在下刈り面積は20ha、植樹は5万本に達しています。また間伐材を利用した薪や炭の製造・販売を行っているほか、自然体験等のプログラムも増加しています。これらの活動には地元企業、JR貨物、川崎市のNPO等も参加するようになっており、昨年は合計3,000名参加しています。こうした活動が実を結び、ここ数年オオムラサキの数が増えています。



【平成14年度 手づくり郷土賞(地域活動部門)受賞】

道の駅 千枚田ポケットパーク

(石川県・輪島市)

国指定名勝「白米千枚田(しろよねせんまいだ)」と隣接し、一体となった道の駅千枚田ポケットパーク。白米千枚田を維持するため地元の有志が集い棚田保全活動や「オーナー制度」「あぜのきらめき(LEDイルミネーション)」「千枚田結婚式」といった観光イベントを実施している。

平成19年度にスタートしたオーナー制度は当初54名の会員数だったが、現在173名と年々増加している。「あぜのきらめき」は観光客への効果が大きく、開催前に比べて約10倍となっている。



【平成4年度 手づくり郷土賞(くらしに根づく施設)受賞】

高校レストラン「まごの店」

(三重県・多気町)

相可高校調理クラブは「即戦力となる料理人育成」を目的に活動。多気町、ふるさと村がこの活動を支援し、研修施設として、全国で初となる高校生レストラン「まごの店」が誕生。食材費や日常管理費、仕入れ等全ての運営を調理クラブで実施しています。食材は地産地消を基本とし、地域の活性化に繋がっています。また、イベント出店、料理教室の開催、企業とのコラボ商品開発等の活躍により知名度が上がり、ふるさと村は毎年25万人が訪れる観光拠点となっています。「まごの店」は料理人を目指す子供たちの目標となっています。



【平成18年度 手づくり郷土賞(地域整備部門)受賞】

手づくり郷土賞^{ふるさと} 選定委員会

全体講評

手づくり郷土賞は、昭和61年度に創設以来、今年度で29回目を迎えております。今年度も、全国各地から、数多くの優れた取組の応募がありました。各々の地域を良くしていこうという想いが伝わってきて、甲乙付けがたいものばかりでした。

地域活動を通じ、かつての賑わいをとりもどしたものの、河川等における美化活動や緑化活動による自然再生したものが多く見受けられました。その一方で、一つの地域に収まらず、複数の地域で連携して地域興しをするもの、伝統芸能を守る場として社会資本を利活用しているもの等もありました。

現在、本格的な人口減少社会が到来し、自然、社会、文化等の面で多様性に富んだ我が国の国土を構成する各地域が、それぞれの個性と価値を改めて自覚し、これを深めていくことによって、人々が地域への誇りと愛着を強めていけるようにすることが必要であります。手づくり郷土賞を受賞した団体および地域は、まさにこれを体現しているのではないのでしょうか。

今後も、受賞された団体および地域においては、活動の継続および更なる発展にご尽力いただくとともに、本賞の選定事例を全国に広めていくことによって、各々特徴ある地域づくりが進んでいくことを、選定委員会一同期待します。

選定委員講評

齋藤 潮 委員長

地元で頑張っている人たちとその活動にエールを贈るのがこの表彰制度の趣旨だと認識しています。しかしながら、応募いただいたらもれなく表彰するのではなく、その中から一部を選定することになると、これはなかなか難しい。選定の目安は「選考のポイント」として明示されているものの、これらが活動の真価を言い当てるに十分かと問われれば、”いわく言い難し”なのです。

NHK 総合テレビに「キッチンが走る!」という番組があります。プロの料理人が日本各地を訪れ、地元の生産者に会って食材の提供を受ける。食材提供者はその土地の気候風土と相談しながらそれぞれ誇りをもって作物を育て、あるいは漁をしてきた人たちです。料理人は食材を吟味し、組み合わせを工夫し、常識にこだわらない新しい料理を考案する。クライマックスは食材提供者を招いての会食です。自分達の食材にこんな調理法があるなんて考えてもみなかったと驚きつつも、満面の笑顔で新しき味に舌鼓をうつ人々。これまで頑張ってきてよかった、と口々に語ります。

この喜びとはなんだろう。この喜びにはいろいろな意味が込められている。選定にあたって委員諸氏と議論しながら、ここに「手づくり」と「郷土」にかかわる大事な何かがありそうだと、頭の中で考えていました。委員諸氏とともにずいぶん悩んだと申し上げて、受賞なさった皆様をあらためて言祝ぎたいと存じます。

荻原 礼子 委員

このところ、今までは地味な扱いであった地方のまちおこしの取り組みが、活力や夢を感じさせる話題として注目されるようになってきたように思う。たとえば何も無い田舎と思われていた町で、地域の心ある人たちが大事な場所の保全に取り組

む。少しずつ賛同者が増え、皆で知恵を出し合っ
てその場所の魅力を活かしたイベントなどでまちの活性化につなげる、というような人のつながりと地域再生の物語りに時代の目が向いている。

そして今回の手作り郷土賞にノミネートされた活動のどれからも、そのような熱いドラマが感じられた。特に大賞を受賞した活動は、多くの方が相当なエネルギーを長年持続させ、様々な人や組織が力を合わせて、奇跡のような成果をあげた事例であると思う。

そして、これらの事例には、実にさまざまな地域づくりの知恵がつまっていると思う。協力者を集めるための知恵、魅力的なイベントの知恵、官民が力を合わせるための知恵などなど。

手作り郷土賞を通して、このような知恵が全国にお裾分けされていくとよいと思う。未来につながるお裾分けの輪が広がるとよい。

佐々木 葉 委員

あらためて、郷土一ふるさと、とは何だろうか。自らが住み、暮らす地域に対して愛着や帰属意識をもったとき、「地域」は「ふるさと」になるのであろう。それは必ずしも出身地である必要はない。さらには、そこを旅人として訪れた人にさえも、「ふるさと」という感覚をいだかせてくれること。それが現代に必要な地域づくり、社会資本整備ではなからうか。それは単に、花が美しい、水辺が気持ちよい、という眺めの問題だけでなく、そこで活動する人々のしっかりとした暮らしの自立とたくましさを支えられた自治力に関わる。今年受賞された方々にはそういった自治の力を礎に、現代の様々な社会問題へのブレークスルーを見いだそうとしているように思われた。地域に根ざしながらも広く外の世界に開かれた活動に特にその可能性を感じる事ができた。必然的にネットワ

ークの一部として存在する水辺および生き物に関わる活動。あるモノから始まり、それを支える材料や人に展開する活動。子どもや若年層の自立を支援する活動。活動自体が自己目的化するのではなく、活動を通じて徐々に形成されていく自治力。それこそが真のふるさとを輝かせるものと期待する。

鈴木 伸治 委員

今年度より選考に参加し、改めて全国で地域の自然、歴史、文化を活かした多様な取り組みがなされていることを認識いたしました。選考にあたり、個人的には質の高い活動をいかに持続的に行っているのかという点を中心に評価しました。受賞例のみならず、選にもれた活動においても、年間百を越える会合やイベントを何年間も続けているような団体が幾つもありました。私自身もまちづくりの活動に参加しており、その経験から見ると、こうした活動を維持しているエネルギーは驚異的であり、取り組まれる方々の情熱には改めて敬意を表したいと思います。また、こうした活動を維持するためには資金の獲得も重要であり、税金に頼らず、様々な工夫により、活動を維持している例には感心させられました。社会資本の維持管理に関するような活動では、その活動が管理者や税金によって支えられているようなケースも見られます。しかし、今後の社会状況を念頭におけば、住民中心のボランティアによる活動だけでなく、企業や団体など多様な担い手が様々なアイデアを持ち寄って自立的に、持続的に活動するケースも増えてくるのではないかと思います。応募者の皆様の今後の活動の一層の発展を祈っております。

関 幸子 委員

地域再生、地方創生の重要性が認識されていま

すが、手づくり郷土賞に応募された地域の取り組みこそが、地方創生に繋がっていくと感じました。受賞された地域だけでなく応募された全ての取り組みは、住民が自らの目線で、地域の資源を活かしてより一層魅力ある郷土にしようとする主体的なものであり、地域の課題を解決するまちづくりそのものだからです。例えば、花の植樹や河川の清掃、湖の再生、里山の保全等の景観・環境整備そして高校生のレストラン運営、地元食材による学校給食等、事業は多種多様であり、同時に数十年にわたる活動で大きな流れになったものばかりです。

手づくり郷土賞の存在は、応募や受賞によって、地域に気づき、地域の個性が育かれ、地域での多様な連携や協働事業が進むという効果にあります。賞は、小さな蕾が大きく花開くように、人々が一緒になって汗を流すきっかけをつくることになっていると言えるでしょう。

今回の選定作業の中で、人口減少と高齢化が進む中で、暮らしを豊かにし、心を耕し笑顔を作り出すためには、足元の小さな活動の大切を改めて認識しました。最後に、受賞されました地域のご活躍と発展を祈念致します。受賞おめでとうございます。

田中 里沙 委員

受賞者の皆様、誠におめでとうございます。今年も多数の応募をいただき、各地域の熱意あふれる活動から、大きな刺激を受けました。活動内容は、歴史、規模、時間軸などが多様で、審査員の間ではその基軸に関して意見が分かれ、時には白熱した議論が広がる審査会となりました。私自身、すべての地域の現場をよく知るわけではなく、資料や現地視察を得た方々からのお声から判断するところもありましたが、かかわる方々が力をあわせてアイデアを出し合い、楽しく、地道に、着実にその輪を広げながら継続している点に敬意を表したいと思います。強い目的意識から生まれた企

画もあれば、少しでも地元のためになればという小さな気持ちから始まった企画もあるようです。日本には各地に素晴らしい資源(=社会資本)が存在し、地域の人々のきめ細やかな感性によって磨きがかかっています。手づくり郷土賞に接し、イベントやワークショップに参加をした人は、地域に一層の愛着を持ち、また次世代も確実に育てているのだと感じます。水辺空間、海道、竹林、里山、港湾、路面電車など、社会資本を活かした郷土づくりは、魅力的な観光資源にもなり、益々の注目を集めるであろうと期待します。

森反 章夫 委員

地域住民の創意工夫が漲る活動によって、道路、河川/河川敷などの社会資本の均質な表情に地域独特の味わい・色合いが与えられる。さらには、地域住民の活動の場所という新たな社会資本の社会的機能、役割が明確になる。その結果、社会資本の均質な空間がまさにその「土地に固有の場所」へと緩やかに変換していく。この変換における固有の場所性の強度を創り出すのは、地域住民の営みであり、それを支援する地方の担当行政の度量であると思われる。公民協働の形とその帰結として、道路・河川・河川敷などの「公有地の地域による領有化」が「手づくり郷土賞」の大切なコンセプトであると再認識させられた。

心に残る案件がある。例えば、「中山間地域の持続可能な地域づくりのモデル」として応募された福島県昭和村の「からむし織」伝承技術である。この無形文化財の保護活動と「道の駅」との連携がどのように深まっていくのかが問われている。中山間地域の活性化は重要な国土形成のテーマである。原材料を持続的に栽培するための環境の維持と「社会関係資本」として織物技術の伝承の仕組みなど、今後の適確な取り組みとその持続に期待したい。

平成26年度「手づくり郷土賞」認定証授与式開催予定

資料-4

各地方整備局等の認定証授与式等に関する問い合わせ先は次頁のとおり

地方整備局等	日時	案件名 及び 授与式会場
北海道開発局	3月 4日(水) 14:00～	案件:再現!江差の五月は江戸にもない ～”いにしえ街道”の景観を生かすまちづくり～ 会場:江差町会所会館(檜山郡江差町)
東北地方整備局	3月 8日(日) 14:00～	案件:室町時代からの伝統技術「からむし生産」伝承とからむし織姫 会場:道の駅からむし織の里 織姫交流館
関東地方整備局	3月27日(金) 10:00～	案件:北区・子どもの水辺 会場:荒川下流河川事務所
	3月10日(火) 10:00～	案件:東京湾海水浴場復活プロジェクト-東京都区内で約50年ぶりに海水浴場が復活- 会場:東京港湾事務所
	3月 3日(火) 10:00～	案件:飛森谷戸 ～里「都」山づくりを楽しもう～ 会場:生田緑地 東ロビジターセンター
	3月 4日(水) 14:00～	案件:オオムラサキの里づくり 会場:北杜市オオムラサキセンター
北陸地方整備局	3月 5日(木) 17:00～	案件:道の駅 千枚田ポケットパーク 会場:輪島市役所
中部地方整備局	3月 5日(木) 10:00～	案件:中川運河水辺再生への挑戦(魅力ある水辺空間の創出) 会場:国土交通省中部地方整備局(丸の内庁舎)
	2月26日(木) 11:00～	案件:豊橋の路面電車(愛称「市電」)を活かしたまちづくり 会場:豊橋市役所
	3月 8日(日) 10:00～	案件:宮川流域エコミュージアム 会場:玉城町保健福祉会館
	2月28日(土) 10:30～	案件:高校生レストラン「まごの店」 会場:まごの店(三重県多気郡多気町五桂956番地 五桂池ふるさと村内)
近畿地方整備局	2月20日(金) 10:00～	案件:安曇川河畔林の竹林の保全をエコツアーにした取り組み 会場:国土交通省近畿地方整備局
	2月27日(金) 16:30～	案件:ストリートライブ能で美しいまちづくりと地域の賑わいづくり 会場:国土交通省近畿地方整備局
中国地方整備局	3月18日(水) 14:00～	案件:庭園都市おかやま 緑と水の道づくり 会場:総合グラウンドクラブ(岡山県総合グラウンド敷地内)
四国地方整備局	3月10日(火) 15:00～	案件:しまなみ海道を活かした自転車まちづくりプロジェクト ～地元根ざした、持続可能な地域おこし～ 会場:サンライズ糸山(今治市サイクリングターミナル)
	2月12日(金) 15:00～	案件:四万十川と共存するツルの里づくり事業 会場:中村商工会議所3階 大会議室
九州地方整備局	3月 6日(金) 13:30～	案件:いのち育む豊かな湿地 会場:唐津市役所3階大会議室(佐賀県唐津市西城内1番1号)
	3月17日(火) 13:30～	案件:芝桜による噴火災害からの復興 会場:島原市役所 3階 大会議室(長崎県島原市上の町537)
	3月 3日(火) 15:00～	案件:川と街道の歴史を元に先祖伝来!手づくりの地域興し(下町惣門会) 会場:山鹿市民交流センター 文化ホール(熊本県山鹿市山鹿987-3)

認定証授与式等問い合わせ先

北海道開発局	代表 011-709-2311 開発監理部 開発調整課	課長補佐 開発専門職	谷 聡 (内線5475) 坂田 亜利賀 (内線5473)
東北地方整備局	代表 022-225-2171 企画部 企画課	課長補佐	齋藤 克浩 (内線3156)
関東地方整備局	代表 048-600-1330 企画部 広域計画課	課長補佐 専門員	丸山 貴志 048-600-1330(直通) (内線3213) 園田 知歩 (内線3222)
北陸地方整備局	代表 025-370-6687 企画部 広域計画課	課長 課長補佐	舘 敏幸 025-370-6687(直通) (内線3211) 安達 志郎 (内線3212)
中部地方整備局	代表 052-953-8129 企画部 広域計画課	課長 課長補佐	中村 和輝 052-953-8129(直通) (内線3211) 柴田 雅洋 (内線3212)
近畿地方整備局	代表 06-6942-1141 企画部 企画課	課長 課長補佐	竹村 雅樹 06-6942-4090(直通) (内線3151) 増田 安弘 (内線3153)
中国地方整備局	代表 082-221-9231 企画部 広域計画課	課長 課長補佐	新宅 清人 082-511-6120(直通) (内線3211) 桑嶋 弘志 (内線3212)
四国地方整備局	代表 087-811-8309 企画部 広域計画課	課長補佐 係長	阿部 福夫 087-811-8309(直通) (内線3212) 福島 裕樹 (内線3231)
九州地方整備局	代表 092-471-6331 企画部	事業調整官	古木 慎一 092-476-3542(直通) (内線3116)

平成26年度 手づくり郷土賞

目的

全国各地において、地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として再認識し積極的に活用した、魅力ある地域づくりに成功している事例が数多く見受けられます。

このように、地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘し、「手づくり郷土賞」として表彰するとともに、好事例として広く紹介することにより、各地で个性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。

部門

手づくり郷土賞(一般部門)

募集対象

手づくり郷土賞(大賞部門)

地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果

これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む成果

選定のポイント

手づくり郷土賞の選考は、以下の視点に着目して行われます。

- ①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫
(地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成等)
- ②地域活動における創意・工夫、取組の独創性
(新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組等)
- ③地域づくりへの成果及び波及効果
(地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果等)
- ④今後の活動の継続性・発展性
(住民が長く活動を続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫等)
- ⑤他の参考となるような先進性・先導性
- ⑥その他(上記以外の特に優れた内容)

- ①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫
(地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成等)
- ②地域活動における創意・工夫、取組の独創性
(新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組等)
- ③地域づくりへの成果及び波及効果
(地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果等)
- ④今後の活動の継続性・発展性
(住民が長く活動を続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫等)
- ⑤他の参考となるような先進性・先導性
- ⑥その他(上記以外の特に優れた内容)
- ⑦社会資本の地域への定着状況
(地域のシンボルとして広く認識されている、多くの地域住民が日常的に活用等)
- ⑧活動の継続状況
(規模を広げながら着実に継続している等)
- ⑨活動の発展状況
(新たな取組を創出している、他地域へ波及している等)

応募団体

社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する地方公共団体(都道府県、市区町村)との共同で応募することができます。

選定委員会

委員長： 齋藤 潮	東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授
荻原 礼子	結 まちづくり計画室 代表・まちづくりプランナー
佐々木 葉	早稲田大学創造理工学部 教授
鈴木 伸治	横浜市立大学国際総合科学部 教授
関 幸子	株式会社ローカルファースト 代表取締役
田中 里沙	株式会社宣伝会議 取締役副社長 兼 編集室長
森反 章夫	東京経済大学現代法学部 教授
瀧口 敬二	国土交通省総合政策局長

※ 詳細については、国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページをご覧ください。
(<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/index.html>)